

第63回 澁澤賞受賞

第63回（平成30年度）日本電気協会澁澤賞贈呈式が平成30年11月20日、東京都内にて行われ、賞状ならびに記念品が受賞者に贈呈されました。

澁澤賞は、故 澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念し、昭和31年に創設され、電気保安に優れた業績を上げた方々を対象に表彰するもので、各界より広く認められる権威ある賞です。

今回は、当社より4名が受賞しました。発明・工夫、設計・施工部門として「リチウムイオンキャパシタ式短時間停電補償装置の開発」〔受賞者：浅野 充俊さん（電力ネットワークカンパニー三重支社津電力センター変電課）・杉本 重幸さん（技術開発本部電力技術研究所流通グループ）・島田 育彦さん（電力ネットワークカンパニー名古屋支社岩倉電力センター変電課）〕の3名が受賞しました。*明電舎と共同開発

受賞者は、電気二重層キャパシタの約3倍のエネルギー密度を持つリチウムイオンキャパシタを蓄電部に用いた短時間停電補償装置を開発しました。本装置は、瞬時電圧低下に加え、継続時間の長い短時間停電（20秒程度）まで補償することを可能とし、非常用発電機を組み合わせると完全無停電を実現ができ、最近の燃料費の高騰に伴い、自家用発電機の代替も期待できる点が評価されました。

また、電気保安への功労として、宮崎 真一さん（電力ネットワークカンパニー送変電技術センター、現、株式会社CTKへ転籍）が受賞しました。昭和50年入社以来、長きにわたり基幹送電線の建設・研究・開発に従事し、今日の安定供給を支える高信頼度かつ大規模・大容量送電設備に関わる設計・建設・保守技術の基盤の構築に大きく貢献されました。



贈呈式会場にて(左から)中島さん(明電舎)、浅野さん、杉本さん、島田さん、山本さん(明電舎)



贈呈式会場にて(宮崎さん)

平成30年度(第23回)リサイクル技術開発本多賞受賞

平成30年度（第23回）リサイクル技術開発本多賞表彰式が平成30年10月11日東京都内にて行われ、賞状ならび副賞が受賞者に贈呈されました。

「リサイクル技術開発本多賞」は、長年、廃棄物リサイクル分野に携わってこられた故 本多淳裕（元大阪市立大学工学部教授、元（財）クリーンジャパン・センター参与）によって、リサイクル関連開発に従事する研究者・技術者等へ研究奨励する制度として、平成8年度に創設されました。

本賞はリサイクル技術に関する優れた研究論文および技術論文発表を行った国内の大学、高専、公的研究機関、民間企業の研究者・技術者を対象に表彰するもので、各界より広く認められる権威ある賞です。

今年度、当社から15年ぶりに、2名が受賞しました。服部雅典さん（技術開発本部電力技術研究所発電グループ）と平岡倫行さん（発電カンパニー武豊火力建設所機械課）が「石炭火力発電所脱硝触媒の劣化メカニズムと化学洗

浄技術の適用」により受賞しました。

本受賞件名は、服部氏らが、脱硝触媒の劣化メカニズムを解明し、化学洗浄により劣化原因である表面付着物を除去することで、脱硝触媒の性能が回復することを見出し、評価されました。この技術は、当社の石炭火力発電所に導入され、廃棄物の発生抑制と大幅なコストダウンを実現しています。



表彰式会場にて(左から)平岡さん、服部さん)

2018年度技術研究開発賞選考発表会および 第71回全社技術研究発表会 開催

2018年11月21日（水）東桜会館にて「2018年度技術研究開発賞選考発表会（以下、開発賞）」および「第71回全社技術研究発表会（以下、発表会）」を開催いたしました。

開発賞は、当社や地域社会または科学技術の進歩に貢献した研究に対し表彰をもって賞揚し、士気の高揚と成果の周知活用を目的としています。また、発表会は技術の向上、事業所・部門間の技術交流、ならびに、研究意欲の向上を目的に毎年開催しております。

今年度、開発賞では、6件の発表件名の中から「社長賞」1件、「本部長賞」1件、「優秀賞」2件が選ばれ、発表会では、ステージ発表12件から「最優秀賞」1件、「優秀賞」4件、ポスターセッション14件から「最優秀賞」1件、「優秀賞」3件が授与されました。

開催にあたり、勝野社長のあいさつを渡邊技術開発本部長が代読され、『当社グループは企業理念として「一歩先を行く総合エネルギー企業グループ」を目指しており、この「一歩先を行く」とは「他社に先んじる」という意味だけでなく、「お客さまの期待を先取りし、超える」という意味があり、技術革新や事業環境の変化は新たな価値を生み出し「一歩先を行く」ための大きなビジネスチャンスだと考えています。自ら考え、挑戦し、お客さまに選び続けていただくために、付加価値の高い新たなサービスの提供が必要であり、技術研究開発は「その鍵」となります。また、今年度は豪雨災害や北海道胆振東部地震による日本で初めてエリア全域に渡るブラックアウト等、激甚災害に対するレジリエンスの向上について痛感した年になりました。レジリエンスの向上にも技術研究開発は期待されるところがあると思っています。このように

技術研究開発を通じて、お客さまからのご期待にお答えし続けることが、今後の中部電力グループの成長には欠かせない重要なことであると思っています。』との技術開発に期待するメッセージが伝えられました。

発表会の最後には、渡邊技術開発本部長より「開発賞発表件名は、既に実用化されて現場で適用されているものや今後の活用が見込まれているものであり、当社事業に大きく貢献しているものばかりで審査委員の総意として各賞が順当に選ばれたと思います。発表会発表件名は、現場において大規模な設備改修を行わず、既存設備の活用や運用方法の創意工夫により課題解決を図っているものもあり、知恵を絞って課題解決を図ってこられた皆さまのことをとても頼もしく思いました。」との講評をいただき、「技術研究開発力は、企業のみならず、今後も引き続き研鑽に励んでいただきたい。」と締めくくられました。



技術研究開発 社長賞

2018年度 技術研究開発賞 受賞結果

賞 詞 名	件 名	所 属	氏 名
社 長 賞	超高速昇温コンパクト炉の開発	技術開発本部 エネルギー応用研究所 生産技術 G	長 伸朗
		販売 CP 法人営業部 エンジニアリング G	岡 慎祐
本 部 長 賞	ヒートバランスによる火力発電プラントの性能管理手法の開発	技術開発本部 電力技術研究所 発電 G	山田 康二
		発電 CP 火力発電事業部 エンジニアリングサービスセンター 技術サービス G	丸山 弘史
		発電 CP 火力発電事業部 エンジニアリングサービスセンター 発電管理 G	吉田 昌幸
優 秀 賞	IoT 技術を活用した工場向けソリューションプラットフォームの開発	販売 CP 法人営業部 エンジニアリング G	中村 剛 近藤 俊和
	川越火力 1～4 号取放水管の大規模地震時における土砂流入対策の開発	発電 CP 火力発電事業部 川越火力発電所 土木建築工事課	伊豫田 光 高橋 正 山口 繁幸

第71回 全社技術研究発表会 受賞結果

【ステージ発表の部】

賞 詞 名	件 名	所 属	氏 名
最 優 秀 賞	石炭 S 分消費基準拡大の研究	技術開発本部 電力技術研究所 発電 G	金森 道人
		発電 CP 火力発電事業部 碧南火力発電所 技術部 発電課	太田 育広 伊藤 康彦
		発電 CP 火力発電事業部 知多火力発電所 技術課	田原 雅徳
優 秀 賞	配電自動化回線への雑音混入における新たな障害探索手法について	電力 NWCP 長野支社 長野通信センター 運用課	市川 直幸
		電力 NWCP 長野支社 長野通信センター 工事課	丸山 文裕
	知多第二火力発電所 2号機 コンバインド最低出力引下げによる運用値拡大について	発電 CP 火力発電事業部 知多第二火力発電所 技術課	萩野 陽 小笠原一男
		廃止措置における電線・ケーブル分解装置の開発	技術開発本部 原子力安全技術研究所 プラント G
中低負荷性能を大幅に向上させた業務用エアコンの開発	技術開発本部 エネルギー応用研究所 生産技術 G	中山 浩	

【ポスターセッションの部】

賞 詞 名	件 名	所 属	氏 名
最 優 秀 賞	南向発電所導水路に付着するトビケラの駆除対応の改善による発生電力量の増加施策について	発電 CP 再生可能エネルギー事業部 飯田水力センター 南向ダム管理所	手塚 航基 小島 和実
優 秀 賞	煙突内部点検装置の開発	発電 CP 火力発電事業部 火力土建 G	西川 武志 坂口 一幸 村瀬 朋樹
	人間工学に基づく変電所作業分析と負担軽減に関する研究	技術開発本部 電力技術研究所 流通 G	杉本 敏文
	家電の電力使用量推定技術の開発	技術開発本部 エネルギー応用研究所 エネルギー提案 G	志村 欣一
		販売 CP お客さま営業部 WEB サービス G	柳平 斐子



技術研究開発 本部長賞



技術研究開発 優秀賞



技術研究開発 優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 最優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 最優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 優秀賞